

学生の意識調査(R6年度)

李永俊(弘前大学)
花田真一(弘前大学)

調査の概要

- 背景

- 東京一極集中が人口減少に拍車
- 大卒者の県外就職は歯止めがかからない状況

- 目的

- 本県大学生を取り巻く社会経済環境の影響を明らかにする。
- 地元に対する意識の形成経路の分析を試みる。
- 地元定着意思決定のメカニズムを明らかにする。

➡ 県内大卒者の県内定着の促進に向けた取組を推進するための基礎資料とする。

調査の概要

- 調査目的

青森県における、若者（県内大学生）の県内定着に向けた取組を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

- 調査対象

「青森創生人財育成・定着推進協議会」を構成していた16高等教育機関（大学及び短期大学（部））に在籍する13,957人

※学生数は大学ポータルHP 2024在学生数、キャリア進学、大学概要等参考（弘前大学社会連携課調べ）

※弘前大学は医学部医学科を除く学部生全学年

※八戸工業高等専門学校は4.5年次（大学1、2年次相当）

- 調査方法

WEB調査（Microsoft Formsによる集計。チラシを配布し、QRコードでアクセス）

- 調査期間

2024年6月1日～8月31日

- 回収状況

回答数4,935（35.4％）（内訳：1年生 1,816／2年生 1,326／3年生 925／4年生 868）

※ 中間報告書での学系分類について（資格取得をベースに分類）

文 系：文学部・人文社会科学部・経営経済学部・総合経営学部・社会学部・経営法学部・社会福祉・地域経営・福祉専攻
・コミュニティ福祉・生活科

教育学系：教育学部・生活創生学部（幼保の資格が取れるため）・幼児保育・保育専攻・保育科

理 系：ソフトウェア情報学部・理工学部・高専・工学部・感性デザイン学部・農学生命科学部

保健学系：保健学科・健康科学部・看護・助産・保健学部・健康医療学部・食物栄養（管理栄養士は保健と分類）・救急救命
・口腔衛生・介護福祉学科・調理師養成・介護福祉

薬 学 系：（薬剤師は免許が異なるため）

これまでの調査結果(概要)

○回答者の属性

※性別は無回答者を除く

	文系	教育	理系	保健	薬学	合計	
県内出身者	668	594	814	982	32	3,090	62.6%
男性	263	93	563	246	6	1,171	
女性	405	497	249	731	25	1,907	
県外出身者	297	200	821	517	10	1,845	37.4%
男性	140	59	564	149	5	917	
女性	156	141	249	368	5	919	
合計	965	794	1,635	1,499	42	4,935	100.0%
男性	403	152	1,127	395	11	2,088	42.3%
女性	561	638	498	1,099	30	2,826	57.3%

調査から見える学生の傾向

○県内出身者の6割は、県内で働くことを希望している(①)

○学部別では、薬学、教育の県内就職希望者の割合が高く、理系、保健の割合が低い(②)

	就職地を県内希望						就職地を県外希望					
	文系	教育	理系	保健	薬学	合計	文系	教育	理系	保健	薬学	合計
県内出身者	418 62.6%	414 69.7%	358 44.0%	629 64.1%	28 87.5%	1,847 59.8%	250 37.4%	180 30.3%	456 56.0%	353 35.9%	4 12.5%	1,243 40.2%
男性	176 66.9%	71 76.3%	236 41.9%	178 72.4%	4 66.7%	665 56.8%	87 33.1%	22 23.7%	327 58.1%	68 27.6%	2 33.3%	506 43.2%
女性	242 59.8%	341 68.6%	122 49.0%	449 61.4%	23 92.0%	1,177 61.7%	163 40.2%	156 31.4%	127 51.0%	282 38.6%	2 8.0%	730 38.3%
県外出身者	17 5.7%	11 5.5%	27 3.3%	38 7.4%	0 0.0%	93 5.0%	280 94.3%	189 94.5%	794 96.7%	479 92.6%	10 100.0%	1,752 95.0%
男性	9 6.4%	3 5.1%	22 3.9%	8 5.4%	0 0.0%	42 4.6%	131 93.6%	56 94.9%	542 96.1%	141 94.6%	5 100.0%	875 95.4%
女性	8 5.1%	8 5.7%	4 1.6%	30 8.2%	0 0.0%	50 5.4%	148 94.9%	133 94.3%	245 98.4%	338 91.8%	5 100.0%	869 94.6%
計 ②	435 45.1%	425 53.5%	385 23.5%	667 44.5%	28 66.7%	1,940 39.3%	530 54.9%	369 46.5%	1,250 76.5%	832 55.5%	14 33.3%	2,995 60.7%

※性別は無回答者を除く

○県内就職を希望する割合は、理系が低い(③)

○学年の進行とともに低下傾向(④)

n=3,090	文系	教育③	理系	保健	薬学	計
1年	61.3%	73.4%	48.4%	67.3%	100.0%	62.8%
2年	64.4%	71.2%	39.5%	68.1%	66.7%	60.0%
3年	62.9%	59.6%	38.3%	59.2%	100.0%	55.7%
4年	62.2%	65.1%	47.0%	56.8%	88.9%	57.0%
計	62.6%	69.7%	44.0%	64.1%	87.5%	59.8%
4年-1年	0.9%	△8.3%	△1.4%	△10.5%	△11.1%	△5.8%

④

調査から見える学生の傾向

○県内出身者が県外就職を希望する理由

- ・「別の場所で生活してみたい」、「都会の方が便利」の割合が高い(特に女子学生)
- ・次が「給与や待遇」、学年の進行とともに「希望する企業がある」が高まる

		女子(n=730)				男子(n=506)			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
ワーク	希望する企業がある	65 (28.3%)	62 (30.0%)	62 (38.0%)	77 (59.2%)	65 (32.2%)	45 (33.3%)	45 (50.6%)	44 (55.0%)
	給与や待遇	78 (33.9%)	86 (41.5%)	67 (41.1%)	53 (40.8%)	67 (33.2%)	48 (35.6%)	42 (47.2%)	29 (36.3%)
	自分の能力が活かそう	41 (17.8%)	37 (17.9%)	22 (13.5%)	27 (20.8%)	48 (23.8%)	25 (18.5%)	22 (24.7%)	28 (35.0%)
	親や家族の勧め	1 (0.4%)	7 (3.4%)	6 (3.7%)	4 (3.1%)	5 (2.5%)	2 (1.5%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
ライフ	都会の方が便利	101 (43.9%)	92 (44.4%)	91 (55.8%)	71 (54.6%)	95 (47.0%)	52 (38.5%)	44 (49.4%)	29 (36.3%)
	別の場所で生活してみたい	113 (49.1%)	118 (57.0%)	89 (54.6%)	70 (53.8%)	75 (37.1%)	49 (36.3%)	35 (39.3%)	31 (38.8%)
	その地域が好き	48 (20.9%)	55 (26.6%)	41 (25.2%)	19 (14.6%)	48 (23.8%)	34 (25.2%)	16 (18.0%)	14 (17.5%)
	奨学金	14 (6.1%)	11 (5.3%)	14 (8.6%)	16 (12.3%)	8 (4.0%)	10 (7.4%)	6 (6.7%)	2 (2.5%)
	知人が多い	15 (6.5%)	13 (6.3%)	10 (6.1%)	14 (10.8%)	10 (5.0%)	8 (5.9%)	8 (9.0%)	6 (7.5%)
	親や家族を支えたい	9 (3.9%)	8 (3.9%)	9 (5.5%)	8 (6.2%)	12 (5.9%)	10 (7.4%)	4 (4.5%)	3 (3.8%)

※複数回答、性別無回答者を除く

調査から見える学生の傾向(追加分析)

○「出身地域と別の場所で生活してみたいから」と回答した者の特徴

- ・「都会の方が便利だから」、「希望する給与や待遇が期待できるから」、「希望する企業があるから」を重複して選択した回答者の割合が多く、経済的な合理性をもって県外を選択している傾向がある。

希望理由	重複回答		
	%	カイ二乗 検定	Num
女性	67.2	***	390
文系	23.5		136
理系	31.6	***	183
保健学系	29.5		171
自分の能力が活かそうだから	17.4	**	101
希望する企業があるから	33.6	***	195
知人が多いから	5.9		34
親や家族を支えたいから	5.0		29
その地域が好きだから	25.0	**	145
就職後の生活が精神的に楽だと思えるから	16.6	***	96
希望する給与や待遇が期待できるから☑	42.8	***	248
親と家族の勧めで	2.2		13
奨学金を借りているから	6.2		36
都会の方が便利だから	51.4	***	298

調査から見える学生の傾向

○県内出身者が就職先を選ぶ際に重視する点(県内就職希望者)

県内出身者・県内希望	女子(n=1,177)				男子(n=665)			
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
希望の勤務地	137 (29.8%)	118 (36.0%)	76 (39.8%)	94 (47.5%)	89 (32.6%)	71 (38.8%)	51 (40.2%)	38 (46.3%)
仕事内容が魅力的	158 (34.3%)	91 (27.7%)	53 (27.7%)	70 (35.4%)	103 (37.7%)	50 (27.3%)	40 (31.5%)	22 (26.8%)
労働環境がいい	305 (66.3%)	214 (65.2%)	136 (71.2%)	104 (52.5%)	177 (64.8%)	126 (68.9%)	82 (64.6%)	52 (63.4%)
休日・休暇が多い	189 (41.1%)	135 (41.2%)	84 (44.0%)	80 (40.4%)	121 (44.3%)	90 (49.2%)	63 (49.6%)	40 (48.8%)
福利厚生が整っている	188 (40.9%)	158 (48.2%)	89 (46.6%)	99 (50.0%)	109 (39.9%)	69 (37.7%)	46 (36.2%)	34 (41.5%)
給料が高い	241 (52.4%)	166 (50.6%)	87 (45.5%)	72 (36.4%)	128 (46.9%)	88 (48.1%)	57 (44.9%)	29 (35.4%)

※複数回答、性別無回答者を除く

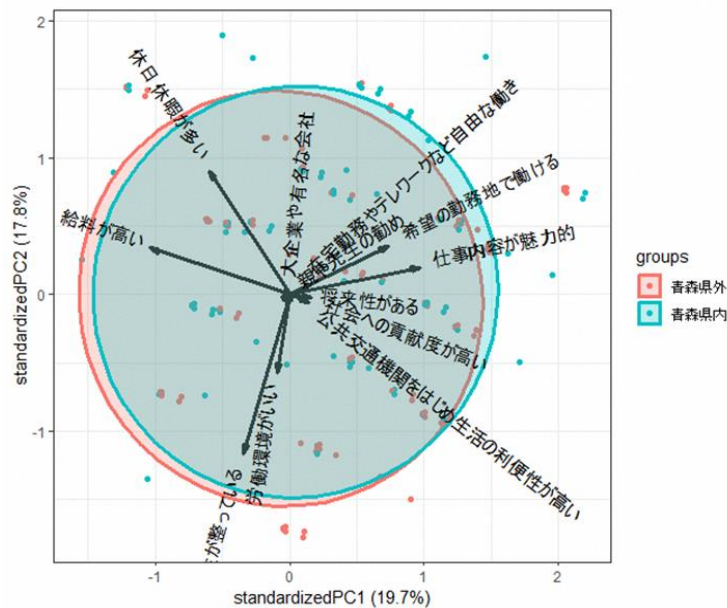
○県内出身者が就職先を選ぶ際に重視する点(県外就職希望者)

県内出身者・県外希望	女子(n=730)				男子(n=506)			
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
希望の勤務地	62 (27.0%)	46 (22.2%)	33 (20.2%)	28 (21.5%)	41 (20.3%)	23 (17.0%)	21 (23.6%)	22 (27.5%)
仕事内容が魅力的	71 (30.9%)	72 (34.8%)	49 (30.1%)	55 (42.3%)	81 (40.1%)	51 (37.8%)	28 (31.5%)	31 (38.8%)
労働環境がいい	156 (67.8%)	132 (63.8%)	104 (63.8%)	70 (53.8%)	111 (55.0%)	79 (58.5%)	54 (60.7%)	38 (47.5%)
休日・休暇が多い	107 (46.5%)	84 (40.6%)	74 (45.4%)	54 (41.5%)	90 (44.6%)	62 (45.9%)	44 (49.4%)	32 (40.0%)
福利厚生が整っている	100 (43.5%)	103 (49.8%)	86 (52.8%)	80 (61.5%)	65 (32.2%)	64 (47.4%)	44 (49.4%)	42 (52.5%)
給料が高い	128 (55.7%)	99 (47.8%)	87 (53.4%)	59 (45.4%)	106 (52.5%)	72 (53.3%)	42 (47.2%)	35 (43.8%)

※複数回答、性別無回答者を除く

調査から見える学生の傾向(追加分析)

	県内就職希望者	県外就職希望者
県内企業に対するイメージ	県内企業の地域密着性やポジティブな職場環境を評価	労働環境や将来性に関してネガティブな評価
重視する視点	仕事内容の魅力や地域密着性	賃金や福利厚生



※主成分分析とは

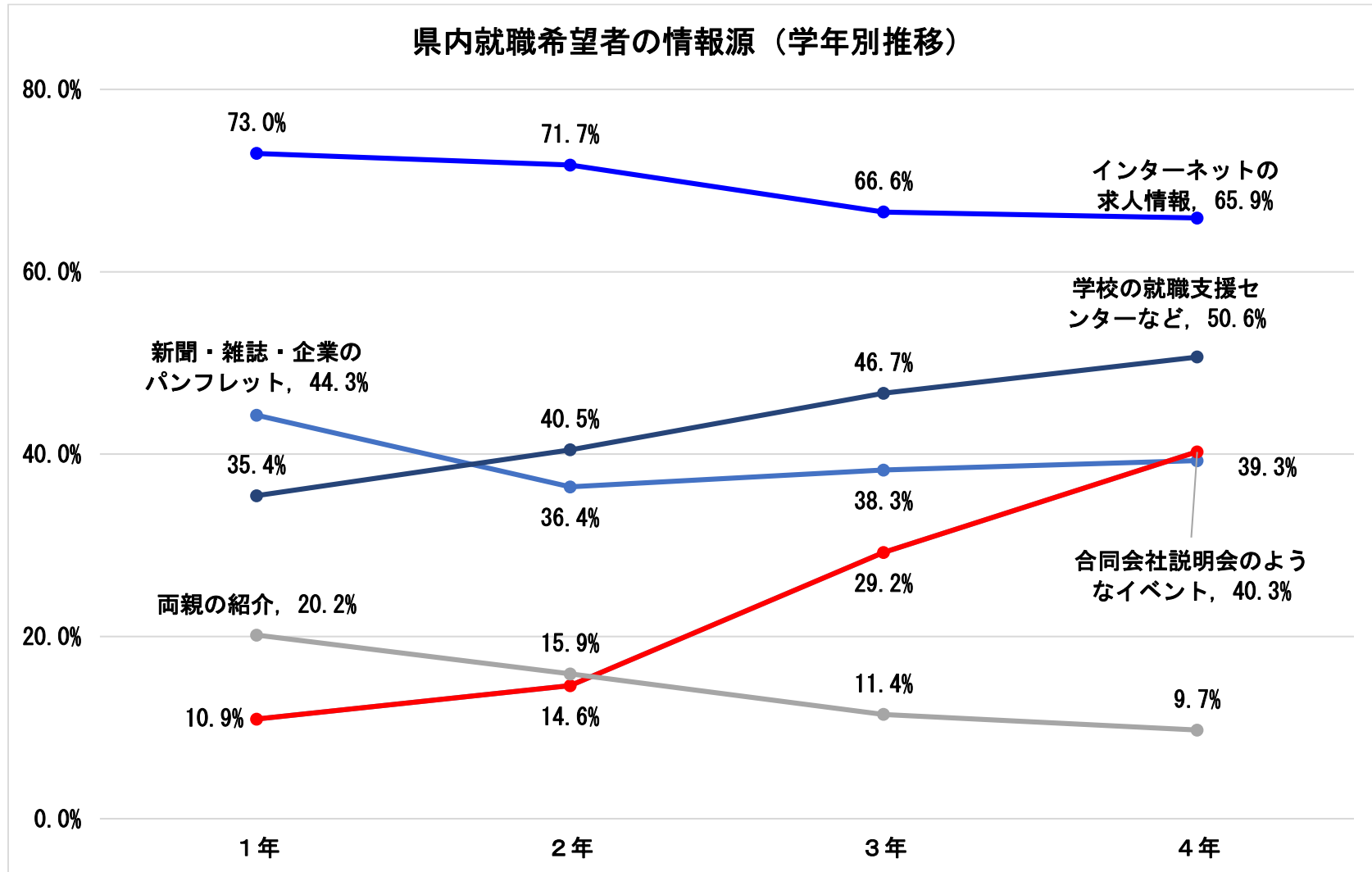
多次元データを少数の次元に圧縮する統計手法。

- 県内企業イメージについて
 - 第1主成分: ネガティブ軸
 - 第2主成分: 地域密着性・職場環境軸
 - 第3主成分: 労働環境軸
- 就職先選択で重視する要因について
 - 第1主成分: 仕事内容の魅力軸
 - 第2主成分: 福利厚生軸
 - 第3主成分: 柔軟な働き方軸

調査から見える学生の傾向

○就職に関する情報源の主なものはインターネット

○就職活動の具体化とともにキャリアセンターや合同企業説明会を活用



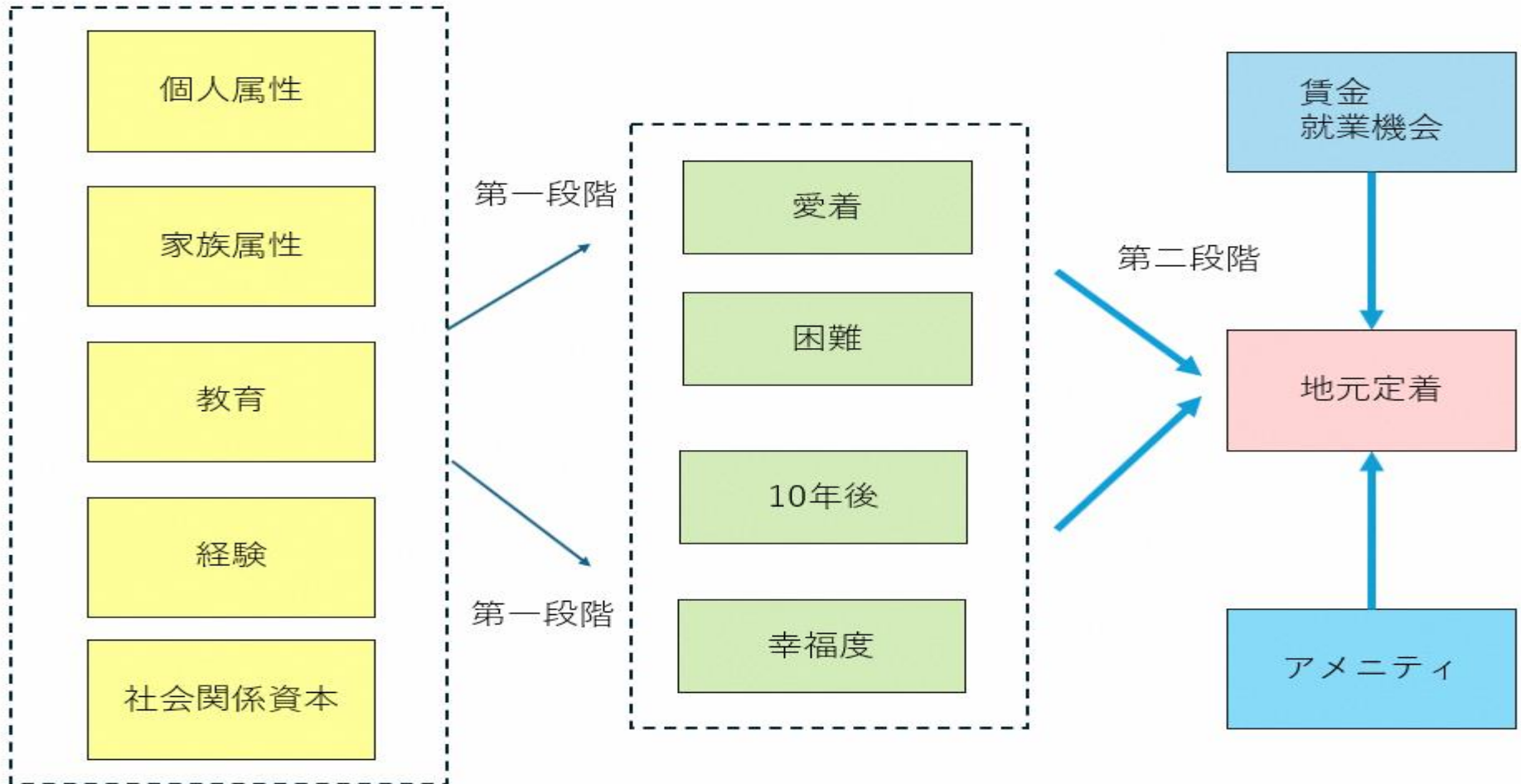
情報源別と希望初職地（追加分）

- インターネットの求人情報のみのグループと学校の就職支援センターを併用しているグループとは、県内希望率に有意な差が見られる。
- 県内企業は、インターネットを活用した採用情報の発信を強化することが有効。
- 就職支援センターは若者の地元定着において重要な役割をもっており、県内企業との連携をはじめとしたさらなる機能の強化が求められる。

情報源	希望初職地	
	県内	県外
インターネットの求人情報のみ	55.2	44.8
インターネット＋学校の就職支援センター	61.7	38.4

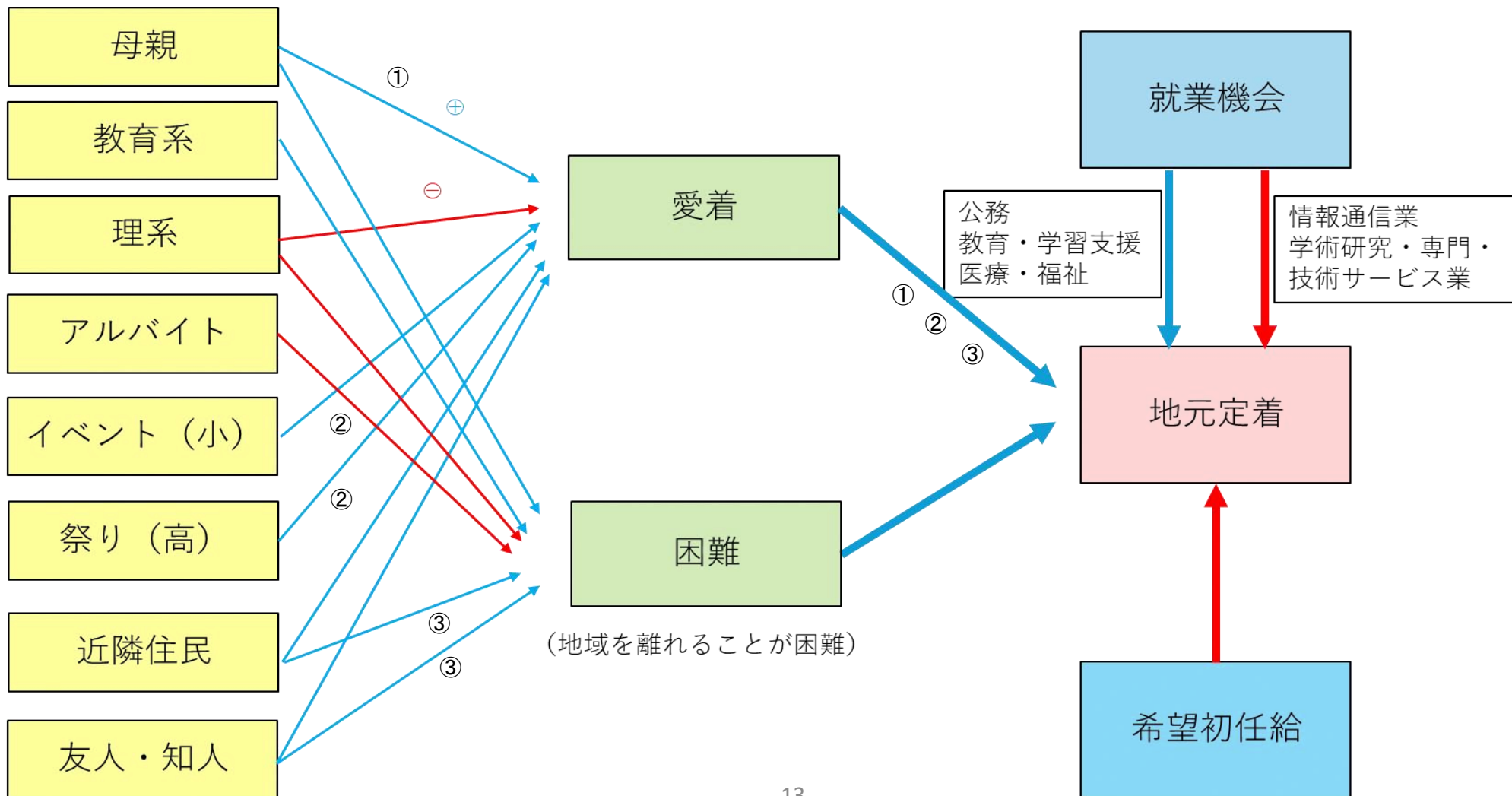
地元愛着と地元定着の相関性(追加分析)

- 新たに社会関係資本(金銭的な支援、人間関係支援、精神的な支援)を追加して分析を行った。



地元愛着と地元定着の相関性(追加分析)

- 母親県内出身有無は、地元愛着を高め、地元定着可能性を高める(①)
- イベントやお祭りの経験は、愛着を高め、地元定着の可能性を高める(②)
- 近隣住民や友人・知人の存在は、愛着を高め、地元定着の可能性を高める(③)



学生の意識調査から見える課題と提案

- 県内就職を希望する学生の割合は、学年進行とともに減少
特に、理系や保健系の学生の希望割合が低い又は減少幅が大きい
- 学生が就職先を選択する際に重視する点は、「労働環境」「福利厚生(休日休暇)」「賃金」
県外就職を希望する学生は、上記のほか働きたい企業があることも理由

協議会の構成員が連携・協力し、以下に取り組むことが重要



- 学生の地元愛着や県内企業への理解をさらに深める取組
- 専攻分野別の取組
- 学生が求める企業の職場環境等の向上や仕事づくり